

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根付いたサービスを心がけている。事業所の理念としては、今までの生活の延長としてグループホームを位置づけている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	担当者会議や日々介護する中で、管理者や職員がチームワークをとりながら、理念の実践に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族との面談の中で、その人らしく、住み慣れた土地で生活していく事を大切にしたいという事を前提でご入居をいただいている。鳩ヶ谷市や公民館の行事等には積極的に参加している。		地域への理念を理解してもらっているかは、定かではないが、地域の行事への参加などで理念の浸透に取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くを散歩したりして、ご近所の方に挨拶をしたり、会話をしたりということは日常的にあるが、気軽に立ち寄ってもらえるほどの付き合いはしていない。		行事がある時などに、ご近所の方をお誘いするなど、日常的なご近所付き合いができるようにしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月のように、公民館で開かれている行事には参加している。そこで知り合った方たちとは顔見知りとなり、親しくしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特にしていない。		今後職員で話し合っ、考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を担当者会議で話し合い、今後の改善点などを検討し実施している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者ご家族の意見や、包括支援センター職員の意見などを文書に残し、職員への周知、サービス向上に活かしている。		今後も運営推進会議では有意義な議論ができるように、工夫し取り組んでいきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員とは常に電話連絡や面会した際に情報交換をしあい、近況報告や相談などを行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市から配布されている冊子などで職員が理解するとともに、必要と思われる人のご家族や関係者などには、制度についての紹介と説明を行なっている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての理解を、全ての職員に研修会などで周知しており、施設では常に念頭において介護にあっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご入居のご相談やご契約の際には、時間をかけて十分説明し、疑問点や不安が無いように努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>グループホームの職員だけでなく、併設のデイサービス職員や事業主など、すべての職員が、利用者の相談や苦情を受け入れ、傾聴している。そして速やかに担当職員へ問題提議し、話し合い、解決できるようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一回、「山吹だより」としてその月にあった行事の写真や話題を載せた広報誌を郵送している。また健康状態など不安定な方は、ご家族へ随時電話や文書で連絡を取り合っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書別紙に、苦情相談窓口の設置を記載し、市役所や国保連などの連絡先も記載している。苦情ではないが、ご家族のご希望やご意見は受け入れ、反映させている。</p>	<p>ご家族からの不満や苦情などはなかなか言い難い問題なので、面会の時などに伺えるよう配慮していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常的に意見交換はしており、必要であれば提案し、運営者はそれを受け入れ反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務時間は、入居者の生活形態に合わせて調整している。欠員が出た場合なども、担当職員間で調整し、人員不足の無いように努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職はほとんどなく、馴染みの職員がお世話することで、ご利用者には安心して生活していただけている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員の採用が無いため計画は立てていないが、事業所内の研修や勉強会、外部の研修などには積極的に参加させ、働きながら実績を積んでいくことを進めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は電話での情報交換くらいである。勉強会や相互訪問などは実施していない。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の余暇活動として、民謡や日本舞踊、手話ダンスなどのサークルを設けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	事業所内の研修会や勉強会で、介護に携わるものとしての誇りや向上心を持つことを提議している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前後は誰もが不安を抱えているので、本人の要望をできるだけ受け入れ、安心していただくことで、信頼関係を築いていく努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	気軽に施設内の見学を実施し、ご家族の相談やご本人の希望を聞くことを優先している。それから、どのように生活していきたいのか、どんなことが希望なのかを十分に話し合い、安心してご利用いただけるように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>他のサービスを利用している方の入居に際し、ご家族、ケアマネージャーとも打ち合わせを重ね、何が本人にとって今一番良い状況なのかを話しあっている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>併設のデイサービスを利用し、まずはデイサービスから介護施設に慣れていただき、職員とのコミュニケーションをとっていただく、という方法など、本人にとって負担にならないような入居の方法を工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>グループホームで生活していく中で、職員と利用者が信頼しあえる事が一番と考えている。ご利用者と職員の会話の中でも、お互いを尊重し合い、いい関係を築いている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご利用者、ご家族、職員が一体となり、グループホームの生活が成り立っているものと思うので、常に情報を共有し合い、ご家族と一緒に介護しているような気持ちで接している。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>入居前と変わらず、ご家族とのいい関係が築けるように、面会や外出など自由にできるように支援している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>これまでの交友関係が継続できるように、友人の面会やご近所の方の面会など、自由にできるように支援している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>同じ入居者として、それぞれが尊重し合って生活している。職員が促すこともあるが、お互いを気遣い、できない事を手伝う事も日常的に見られ、支えあっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>ご利用者の家族より、文書での連絡やこちらからの季節のハガキなど、継続した付き合いを続けている。</p>		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居に際しては今までの生活になるべく近い生活リズムを心がけている。居室内も自由にレイアウトしていただき、利用者本位になるように努めている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>これまでのサービス利用の経過、または生活歴や暮らし方等は、事前に家族や担当者から伺い、なるべくそれに近い生活ができる様に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>その日の気分や体調によって、部屋で過ごしたりリビングで過ごしたりと自由にできる様配慮している。また、レクリエーション活動や行事なども本人の意向により参加不参加自由に行っている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族との面談の中で、本人の課題と今後のケアについて十分に話し合い、担当者会議においても職員それぞれの意見を出し合って介護計画を作成している。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月行なわれる担当者会議において、一人ひとりの状態を把握し、計画の見直しや変更が生じた場合には、新たな対応方法を検討している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の記録をしており、状態の変化など職員間で情報を共有しており、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況により、必要であれば専門医への受診を付き添ったり、送迎したり、家族ではなかなかできない事を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	季節ごとに公民館での行事に参加したりして、文化にふれあっている。夏休みには地域のボランティア活動の受け入れをしており、小中高生などとの触れ合いを楽しんでいる。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設のデイサービスを利用して、レクレーションやイベントなどを楽しんでいる。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には包括支援センターの職員に出席してもらい、客観的な意見やケアについてのアドバイスをもらっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者ご家族に事前に納得していただき、かかりつけ医の往診を月2回受けていただいている。緊急の場合にも対応ができるようなシステムをとっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医ではないが、かかりつけ医が認知症の知識もあり、高齢者医療の実績もあるので、何でも相談し、支援してもらっている。また、状況により他医療施設への紹介などもしてもらっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に看護師がおり、健康管理を行なっている。またかかりつけ医の看護師にも連携しており、状況により随時連絡相談できる体制が整っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中には、現在の健康状態・身体状況などについて、電話やFAXなどで詳しく連絡を取り合い、いつ退院になってもいい様に準備している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	体調の変化により随時家族との連絡は取り合っているが、重度化した場合などは、今後の方針などご家族十分に納得いくように話しあい、その方針にそって介護にあたっている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々の健康管理や食事量チェックなど、時間ごとにご利用者の状況を把握し、その都度職員に周知している。最期をいかに幸せに迎えられるかという課題を皆が共有し、対応方法について検討を重ねている。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	特に前例がないが、その場合は関係者との連携に努め、本人のダメージを少なくすることに心がける。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>社内研修会や勉強会などで、プライバシーの保護については徹底しており、問題が起きた場合には職員同士で話しあい解決している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の思いや希望を受け入れながら、日々の会話をしたり接したりしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご利用者のご希望を優先して過ごしていただいている。居室でのんびりしたいとか、ベッドで寝ていたいとか、リビングでお喋りしたいなど。行事の参加についても気分や体調に合わせて決定していただいている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>特に希望があれば店にお連れすることもあるが、ほとんどは理容師の資格を持つ施設職員が散髪を行なっている。慣れ親しんだ職員であり、気兼ねなく希望を言えるので、ご利用者も安心している様子である。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る人がほとんどいないため、日常的な食事については、厨房職員が行なっているが、行事の際に準備・片付けなど能力に応じてお手伝いしていただいている。</p>	<p>もっと皆で食事作りをする機会を増やしていき、楽しみながら準備から後片付けまで出来るようにしていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご家族からの差し入れのお菓子類や飲み物などは、居室内でいつでも自由に楽しめるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェックをすることにより、排泄パターンを把握し、その人に最も良い方法での排泄方法を考え工夫しながら、気持ちよく排泄ができるように支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>ほとんど入浴日や時間が決まっているので、その時間に入っ ていただいている。</p>		<p>入浴時間が決まっていることにより、生活リズムが整っては いるが、本人の希望や意向に沿っていけるように、検討し ていきたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>いつでも居室内のベッドで休息がとれるように支援している。 ベッドはいつも清潔にし、お気に入りの寝具をご利用いた だいたり、気分良く眠れるようにしてある。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>併設のデイサービスとの交流は日常的にあり、行事やイベントは皆で楽しめるようにしている。イベントの参加などでは一緒に歌を歌ったり、楽器を演奏したり、できることで楽しんでいただいている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>能力によって所持していただくこともあるが、現在のご入居者のご家族とも相談の上、能力から判断し、所持していただ いていない。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>お天気の良い日には近くを散策したり、ご自宅への外泊など、ご希望に沿ってしていただいている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>電車に乗って大型ショッピングセンターへ出かけたり、職員のお宅に遊びに行ったり、いろいろな外出の機会を作っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望であれば、携帯電話の保持や、自室電話の保持ができるようにしている。その他にも事業所内の電話からいつでも家族に電話したり、手紙のやり取りも自由にできるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人、以前住んでいた近所の人などが気軽に訪問しても暖かく迎え入れることを大切にしている。施設内や居室内も家族が過ごしやすいような環境を整えている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が正しく理解しているわけではないが、担当者からの指示によって身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		全ての職員に周知するようにしていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に施錠はしていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員間の情報伝達により、居室にいるのかりビングに居るのかなど、本人の所在を把握し、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物を職員が把握しており、一人ひとりの能力に応じて、保管方法など対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じて、転倒の危険箇所には介助したり、注意の必要な方には、誤嚥や誤薬の無いように見守りをしたりと対応している。またご利用者の居場所を常に把握し、行方不明が起こらないようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一年に1回程度応急手当や初期対応の勉強会を行なっている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練はしているが、日中に限るので、昼夜を問わずというところまでは行っていない。地域の人々の協力への働きかけも特にしていない。		災害を想定し、地域の住民との連携が今後の課題として検討していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族とは、面会の際などに話し合いをしており、その中でリスク等に関しても話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変を発見した場合には、全職員に周知するとともに、状況に応じて主治医への電話やFAX連絡をし、指示を仰いでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員が服薬管理や薬の理解をしており、他の職員への指示や説明を行なっている。服薬と症状の関係性についても常に気を配り、職員への申し送りや、気づいた点などがあれば主治医への連絡をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックにより、便秘の方には水分補給や乳製品の補給、又はレクリエーションで体を動かすことを促し、常に便秘の予防に取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きは、自分で出来る人には洗面所ですていただく、介助の必要な方には最小限の介助をしながら、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量については日々チェックしており、特に摂取量の少ない方や体調が思わしくない方については、個別に細かくチェックしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>	<p>感染症の予防や対応は特に取り決めはないが、職員それぞれが手洗い、うがいなど実行している。また、感染の恐れのあるご利用者は主治医の判断で隔離したりと対応している。</p>		
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>厨房担当者により衛生管理されているので、いつも新鮮で安全な食事環境が保たれている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>施設の入出口から、玄関周りに至るまで、様々な草花をあしらひ、落ち着きのある明るい雰囲気を保っている。また清掃にも気を配り、気持ちの良い玄関周りに気を配っている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気を大切にし、自然な光が差し込んだり、季節の貼り絵を壁に貼ったり、居心地良く過ごせる空間作りを工夫している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>お喋りを楽しみたいご利用者には近くに座っていただいたり、お一人になりたい時には離れた場所でもつろいでいただいたり、居場所には配慮している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が今まで使用していた家具や備品などをお持ちいただき、ご家族も安心して一緒に過ごせるような居室作りをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日々換気には気を遣い、臭いがこもらないようにしている。また温度調節は本人の体調や気候などの状況に合わせて対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元の安全には気を配り、段差の解消や手すりの取り付けなど配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室内の環境を本人の分りやすいように整えることで、混乱や失敗を防ぎ、出来ることを増やす努力をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りには池や植物などがたくさんあり、自由に散歩することができる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームの一番の特徴としては、併設のデイサービスとの交流があることです。同じ建物の中で一日を過ごすお年寄り達が、触れ合い、また双方の職員とも会話を交わし、とても良い刺激になっていると思います。多くの人との関わりの中で、自分を表現したり、悩み事や相談事を打ち明けられるのも、ここで生活していくご利用者にとっては大切なことのひとつです。そして、昨年からの試みで、逆デイサービスをやっております。職員と一緒に職員の自宅や知人のお宅へお邪魔して、日中の楽しいひと時を過ごし、ホームへ帰ってくるというものです。時には電車に乗ってショッピングセンターへ出かけたり、普段行けないところへの外出がご利用者の意欲を引き出し、明るい表情が見られるので、今後も継続していきたいと思っております。